

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について

令和3年10月14日
枚方市立第三中学校

文部科学省が今年5月に実施した、令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、生徒の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

【全体概要】

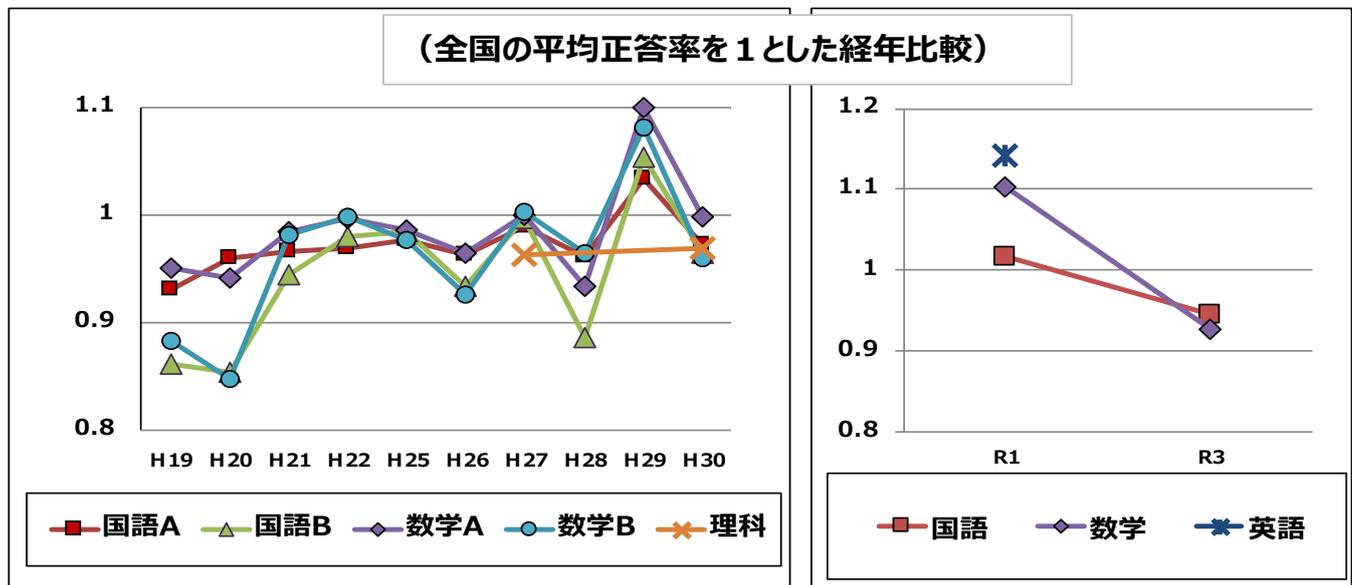
学力調査の結果

※調査結果について

教科や出題範囲が限られていることから、全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部分です。

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較（対全国比）をお知らせします。

（※令和元年度より、A・B問題が一体化されましたので、グラフを分けています。）



< 学力調査結果の概要 >

○国語について

→平均正答率は、大阪府と全国を下回っています。全ての領域で、全国を下回りました。記述式の問題に関する正答率が低く、無解答率が高い傾向にあります。

○数学について

→平均正答率は、大阪府と全国を下回っています。計算分野においては課題がみられました。今回出題された多項式の減法の問題では6割の正答率でした。

※本調査は、平成19年度から実施されています。

※平成23年度・令和2年度は中止、平成24年度は一部の学校を対象にした抽出調査のため、掲載していません。

※英語の調査は、令和3年度は行われておりません。

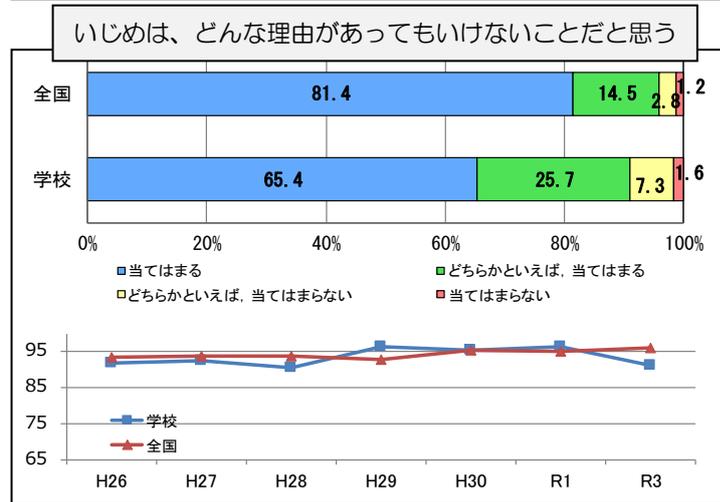
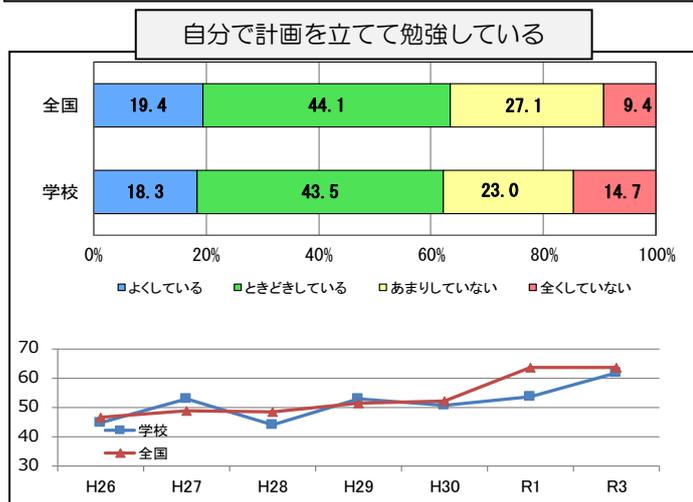
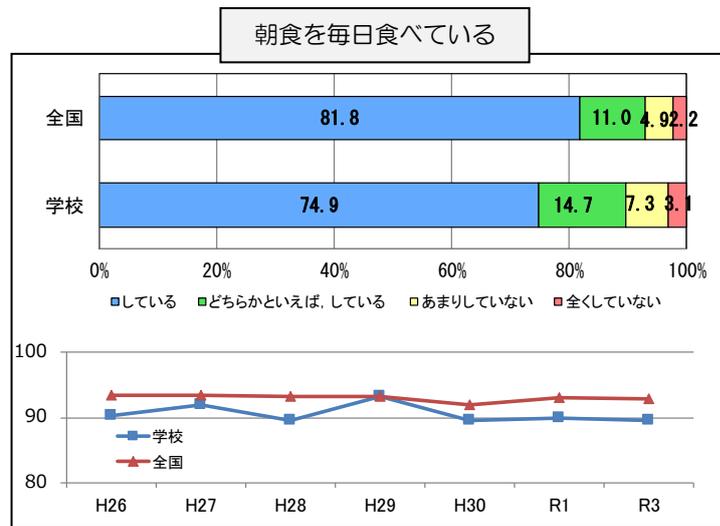
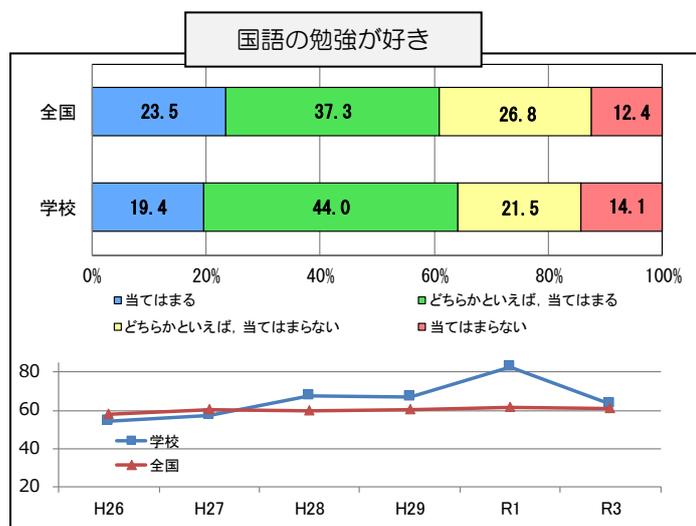
質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「あてはまらない」を示しています。

※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。

※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。



< 質問紙調査結果の概要 >

- 学習に対する関心・意欲・態度→肯定的な回答が全国平均と同程度です。
- 生活習慣→肯定的な回答が全国平均を下回っています。
- 学習習慣→肯定的な回答が全国平均とわずかに下回っています。
- 規範意識→肯定的な回答が全国平均を下回っています。

まとめ

全国平均と比べ学力調査の結果、質問紙調査の結果ともに下回っている傾向があり、相関関係が見てとられました。国語では記述式の問題に対して課題が見受けられるので、自分の考えなどを適切な言葉で表現する力の向上が必要です。また、数学では計算分野における課題があり、基本的な計算の力の定着が必要です。質問紙調査の結果の中では「自分で計画を立てて勉強している」の項目の様
に令和元年度の結果と比べると大きく向上しているものもありますが、生活習慣や学習習慣に関しては更なる改善を図り、学力の向上につなげていくことが必要と考えています。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

< 国語 >

成果や課題があった設問

【課題】

意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く

【成果】

意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する

【意見文の下書き】

① SNS（ソーシャルネットワークワーキングサービス）などを活用し、インターネット上で文字を通してやりとりをする機会が増えてきている。私は、SNSでやりとりをする際は、相手にどう伝わるかをよく考えながら言葉を選んで使うべきだと思う。SNSは少ない文字数で自分の思いや考えを表現することが多く、相手に伝えたいことが正しく伝わらないことがある。^{④(からだ)}

② 以前、私は次のような経験をした。SNSを使い、みんなで待ち合わせの相談をしていたときのことである。一人の友達に対して、待ち合わせの場所までの交通手段を尋ねるつもりで「何で来るの。」と書いたところ、「どうして行ってはダメなの。」という返信が来て、はっとさせられたことがあった。友達は、私の言葉を「なぜ来るのか。」という意味で捉えてしまったのだ。そのとき私が、友達に誤解を与えないように「集合場所までどうやって来るの。」と③

③ 皆さんの中には、友達同士であれば短い言葉でも十分に意思疎通が図れると考えたり、短い言葉でやりとりができる手軽さこそがSNSのよさだと考えたりする人もいるだろう。しかし、伝えたいことが正しく伝わらなければ、私が経験したように相手に誤解を与え、不快な思いをさせてしまうこともあるのだ。

④ SNSで自分の思いや考えを表現する場合には、内容を相手に正しく伝えるために、言葉を十分に吟味して使うことが大切だ。少なくともあの経験以来、私は、SNSを使ってやりとりをする際には、自分が書いた言葉を必ず読み返してから発信するようにしている。

一 山田さんは、「意見文の下書き」を読み返して、④と⑤のように直しました。その意図として最も適切なものを、次の1から5までの中からそれぞれ一つ選びなさい。

1 ①段落で述べている意見の根拠となる具体例をより詳しく説明しようとした。

2 ②段落で述べている意見の根拠であることをより明確にしようとした。

3 ③段落で述べている意見の根拠であることをより明確にしようとした。

4 直前の文で述べている意見の根拠であることをより明確にしようとした。

5 直後の文で述べている意見の根拠となる具体例をより詳しく説明しようとした。

二 山田さんが書いた「意見文の下書き」の構成にはどのような工夫がありますか。複数の段落に着目して、さい。その際、①、②などの段落の番号を示しながら書くこと。
なお、読み返して文章を直したときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

2二	正答率	無解答率
本校	65.1	15.1
全国	74.5	8.5

2一	正答率	無解答率
本校	29.0	0.0
全国	24.8	0.3

(課題の考察)

文章構成を理解し、それについて自分の考えを書く問題。正答率は全国平均より下回り、無解答率も全国と比べ多い結果となりました。要因として考えられるのは、まず文章記述に関する苦手意識です。特に自分の考えをまとめ、それを述べることは日ごろの授業でも苦手と感じている人が多いです。次に考えられるのは、複数の段落を参照、見比べながら記述することに慣れていない生徒が多いことです。直前の問題では文章構成の特徴を理解しているようでしたが、それを自分の言葉でまとめるのは苦手な傾向にあるようです。

(成果の考察)

意見文の下書きを読み、書き直した意図を選択肢からそれぞれ選ぶ問題。無解答率が0%だったことから、わからなくても諦めず解く習慣の意識がついてきているように思います。正答率が全国平均を大幅に超えていることに関して、文末表現の意識は日ごろから指導しており、記述問題の際も文のねじれに関する間違いが一年生の時より減ってきていると感じています。定期テスト等のテスト時だけでなく、通常の授業の際にもそういった部分に着目して指導を続けている成果の表れであると考えます。

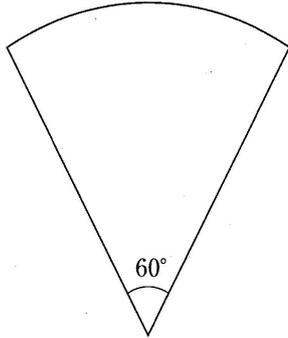
< 数学 >

成果や課題があった設問

【成果】

中心角 60° の扇形の弧の長さについて正しいものを選ぶ

- 3 次の図のような、中心角 60° のおうぎ形があります。このおうぎ形の弧の長さは、同じ半径の円の円周の長さの何倍ですか。下のアからオまでの中から正しいものを1つ選びなさい。



- ア $\frac{1}{2}$ 倍 イ $\frac{1}{3}$ 倍 ウ $\frac{1}{4}$ 倍 エ $\frac{1}{5}$ 倍 オ $\frac{1}{6}$ 倍

【課題】

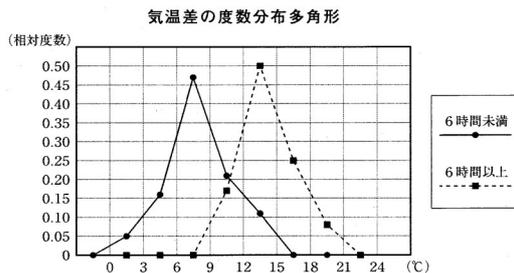
「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する

2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いるのは、日照時間が「6時間未満」と「6時間以上」の が違うからです。

上の に当てはまる言葉として正しいものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

- ア 日照時間 イ 気温差
ウ 階級ごとの度数 エ 度数の合計

- (3) 桃花さんは、前ページの気温差の度数分布表をもとに、横軸を気温差、縦軸を相対度数として度数分布多角形(度数折れ線)に表しました。



気温差の度数分布多角形から、「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、気温差の度数分布多角形の2つの度数分布多角形の特徴を比較して説明しなさい。

3	正答率	無解答率
本校	72.0	0.5
全国	68.1	0.3

(成果の考察)

おうぎ形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解し、解答することができています。おうぎ形については円錐の表面積の求積問題において、学習を重ねてきました。その中で、おうぎ形が円全体に比べてのどの割合の大きさかを考えられるようになったと思います。今後の取り組みとして、平面図形や立体図形の指導に当たっては、数学的モデルを用い、具体的にどのような図や立体になるかのイメージを持ったうえで答えが導き出せるようにします。

8 (3)	正答率	無解答率
本校	4.8	39.8
全国	11.1	32.2

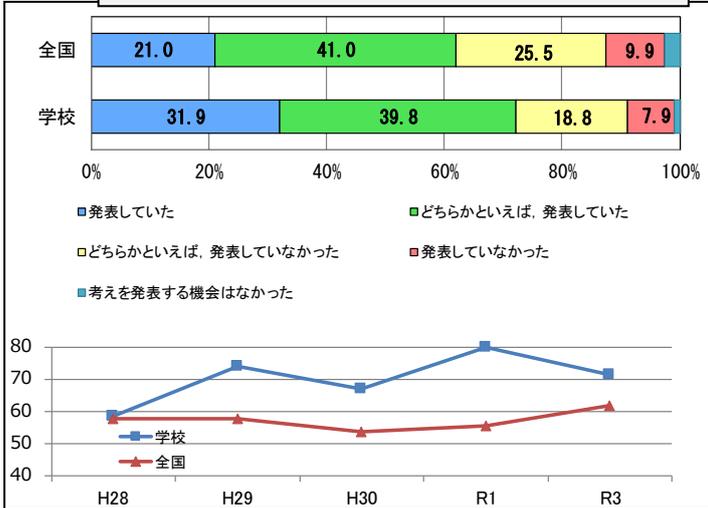
(課題の考察)

日照時間が6時間以上の日を示す度数分布多角形と日照時間が6時間未満を示す度数分布多角形について最大値の高さや幅に対する記述が多くみられました。関数の分野での直線のグラフにおける横軸、縦軸の意味については考えられるようになっていく一方で、度数分布多角形において横軸、縦軸が何を表しているのかを意識できていないことがわかりました。今後は、資料の活用における分野においてもグラフの横軸、縦軸が何を表しているのかを考えさせる問いかけをしていきます。

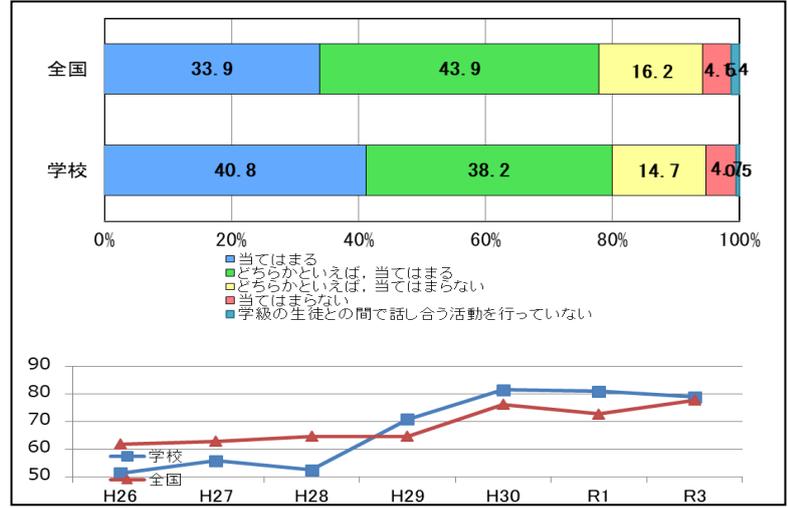
質問紙に関する調査

【成果のあった項目】

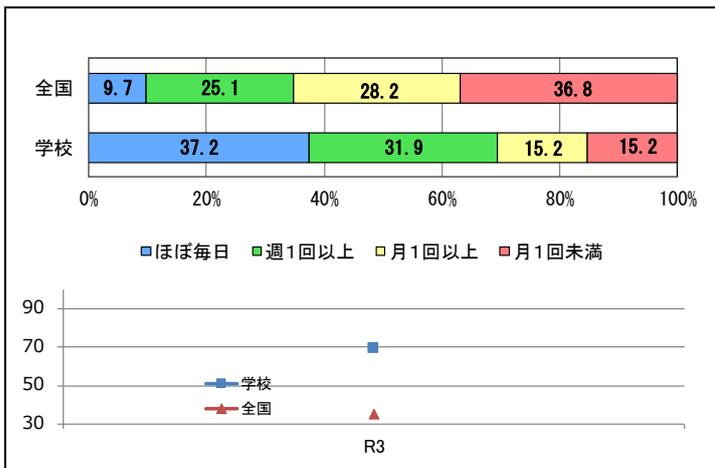
授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた



学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている



あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか

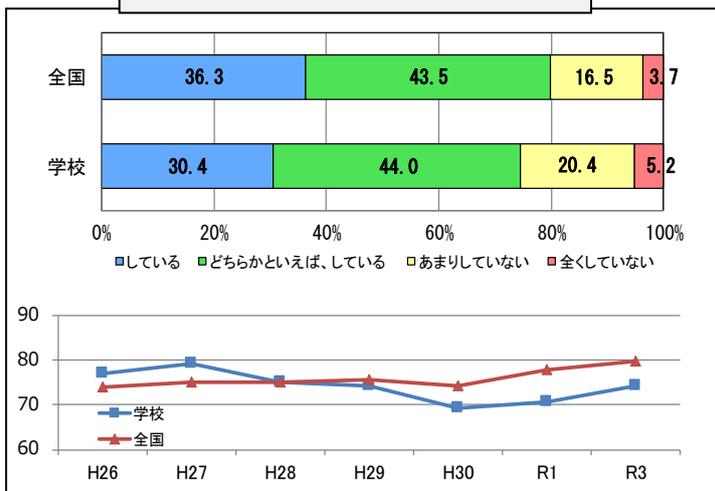


(考察)

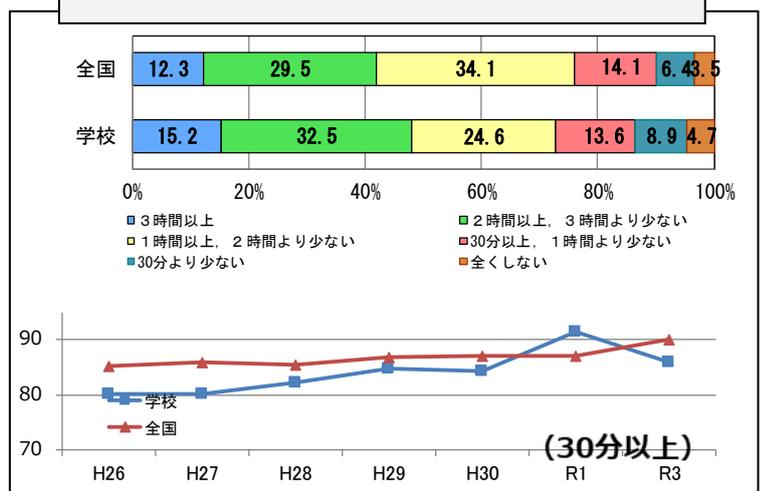
今年度から新学習指導要領が完全実施されたことに伴い、従来の一斉形式での知識伝達型授業の形から生徒の主体的・対話的な学びをめざした授業の中で自分の考えを相手に伝えたり、学級の友人と意見を交流することにより、それぞれの考えを深めることができていることが見て取れます。また、タブレットを用いた取組みの中でもClassroomやミラישードを活用することにより、様々な考えに触れることが出来ていると考えます。今後も、そのような取組みの中で自ら学び、考える姿勢を養っていきます。

【課題が残った項目】

毎日、同じくらいの時刻に寝ている



学校の授業時間以外に普段(月曜日から金曜日)行っている1日当たりの勉強時間



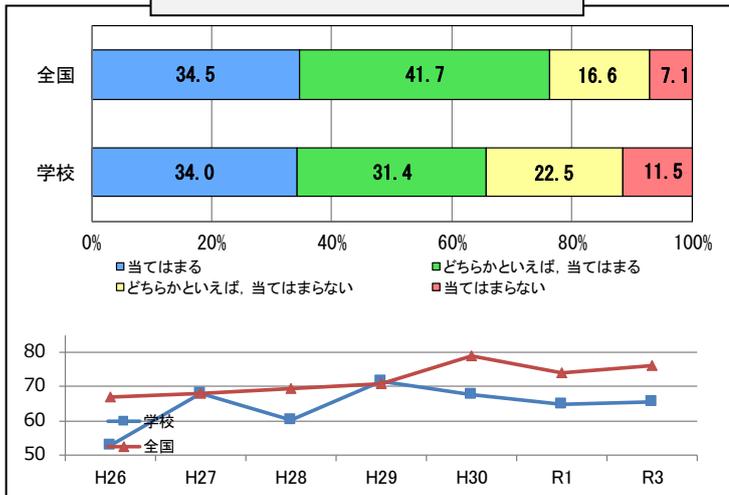
(30分以上)

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。

※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。

※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

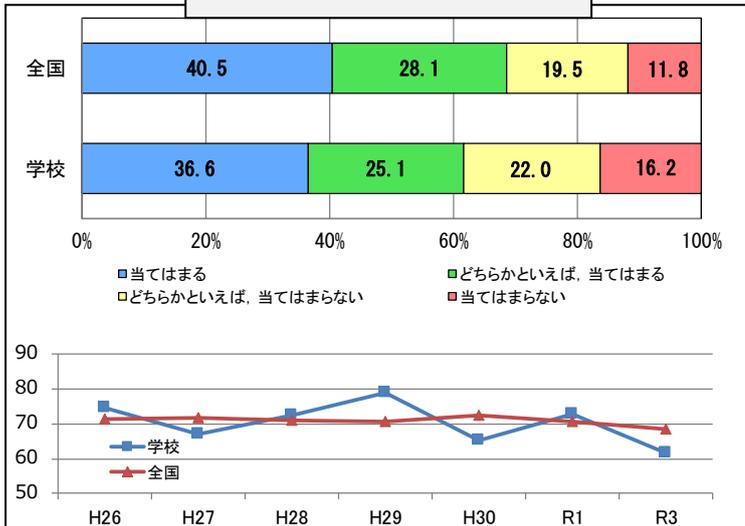
自分には良いところがあると思う



(考察)

「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「学校の授業時間以外に普段行っている1日あたりの勉強時間」の項目から生活習慣や学習習慣について全国平均と比べ課題が見られます。学力調査の結果に関係するとされるこれらの習慣を改善する必要があります。また「自分には、よいところがあると思う」「将来の夢や目標を持っている」の項目も全国平均より低くなっています。行事などを通して、各自の自尊感情や自己有用感を高められるように取組みを進めます。また、進路指導を通して、将来の目標について考える機会を設けます。

将来の夢や目標を持っている



分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

(1) 授業改善について

「主体的・対話的で深い学び」を活用し、個人で考える場面とグループ学習の場面を積極的に取り入れ、基礎的な問題に対して一人ひとりの理解が深まるように指導していきます。また、自分の意見や感想などを交流する機会を作り、他の意見に触れることで自分の意見をより深めていくことを意識することができる授業や、発展的な問題においては、グループ学習を活用し、単にやり方などを教師側から伝えるのではなく、生徒に気づかせるような問いかけにも力をいれていきます。さらに、ICT機器なども使いながら、子どもたちが主体的に活動ができるように授業を計画していきたいと思えます。

(2) 家庭学習について

定期テスト等の予め出題範囲が決まっているテストでは高い結果が取れるのに、全国学力学習状況調査のような出題範囲が決まっていないテストに関しては結果が思うように伸びない生徒が少なからずいるので、日々の家庭学習で授業の復習や定期テスト以外の範囲の学習への呼びかけ、応用問題への取り組みなどを増やしていきます。また、ICT機器の導入により、いつでもタブレットでの学習が可能になっています。苦手分野の分析、復習などにミライシードやタブレットドリルなどのツールも活用します。